



平成 28 年 2 月 29 日

独立行政法人国立科学博物館

### 半世紀ぶりにチャルメルソウ属の新種を発見！！

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)の奥山 雄大(植物研究部 多様性解析・保全グループ 研究員)は、森田 秀一氏(生物研究家)が発見した未知の植物が、チャルメルソウ属の新種であることを確認し、アマミチャルメルソウとして発表しました。

国立科学博物館は鹿児島県奄美大島の森田 秀一氏(生物研究家)が2011年3月に発見した未知の植物が、世界でも過去56年間発見されていなかったユキノシタ科チャルメルソウ属の新種であることを確認し、アマミチャルメルソウ(学名:*Mitella amamiana* Y. Okuyama)として論文発表を行いました。

なお、国立科学博物館筑波実験植物園(園長:岩科 司)において、本種の開花株を3月1日(火)から特別公開します。現在、アマミチャルメルソウを栽培している植物園は世界で筑波実験植物園だけであり、この貴重な植物をぜひご覧ください。

つきましては、本件について、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

※詳細については、別紙をご参照ください。

#### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当:西田 幸男

担当研究員:奥山 雄大(植物研究部 多様性解析・保全グループ)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: [tbjimu@kahaku.go.jp](mailto:tbjimu@kahaku.go.jp)

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

## 研究の成果について

### 1. 発表論文

(1) 論文タイトル : *Mitella amamiana* sp. nov. , the First Discovery of the Genus  
*Mitella* (Saxifragaceae) in the Central Ryukyus

(2) 掲載誌 : Acta Phytotaxonomica et Geobotanica (日本植物分類学会英文誌)  
2016. 67 (1) : 17-27

(3) 掲載日 : 平成 28 年 2 月 29 日 (月)

(4) 著者 : 奥山 雄大 (国立科学博物館植物研究部多様性解析・保全グループ研究員)

### 2. 研究の対象

チャルメルソウ属は、その果実の形が楽器「チャルメラ」に似ていることが特徴で、北米および東アジアの温帯林に 20 種が知られている多年草です。これらの 20 種のほとんどは 20 世紀初頭までに発見されたものであり、1959 年に東京科学博物館（現在の国立科学博物館）の大井 次三郎博士が発表したミカワチャルメルソウを最後に、世界からチャルメルソウの新種が発見されることはありませんでした。また、国内では屋久島に分布するヒメチャルメルソウが分布の南限であり、奄美諸島以南にはチャルメルソウの仲間は存在しないと考えられていました。

### 3. 研究内容

2011 年 3 月、鹿児島県奄美市在住の生物研究家 森田 秀一氏が奄美大島の山中で、チャルメルソウの仲間と思われる植物を発見し、その標本が地元の植物研究家を通して国立科学博物館に送付されてきました。前述の通り、奄美大島にはチャルメルソウの仲間が自生するという記録がなかったため、この植物の発見自体が驚くべきものでした。国立科学博物館で植物の形態や遺伝子情報を詳しく調べたところ、この植物はこれまで知られていたどのチャルメルソウの種とも異なるものであることが判明し、

新種アマミチャルメルソウ（学名：*Mitella amamiana* Y. Okuyama）として論文発表を行いました。

#### 4. 今後の展望

新種アマミチャルメルソウの自生地は奄美大島でもごく狭い範囲に限られています。また、その個体数も推定で1000以下と、極めて希少であり、些細な人為的影響でも存続が危ぶまれる状況（国際基準で絶滅危惧I B類に相当）です。従って本種の自生地を厳重に保護することが重要です。

国立科学博物館筑波実験植物園では、現在研究用に栽培されている約10株の本種を増殖し、研究用に日本全国の植物園に配布するなどして絶滅のリスクの軽減を行います。

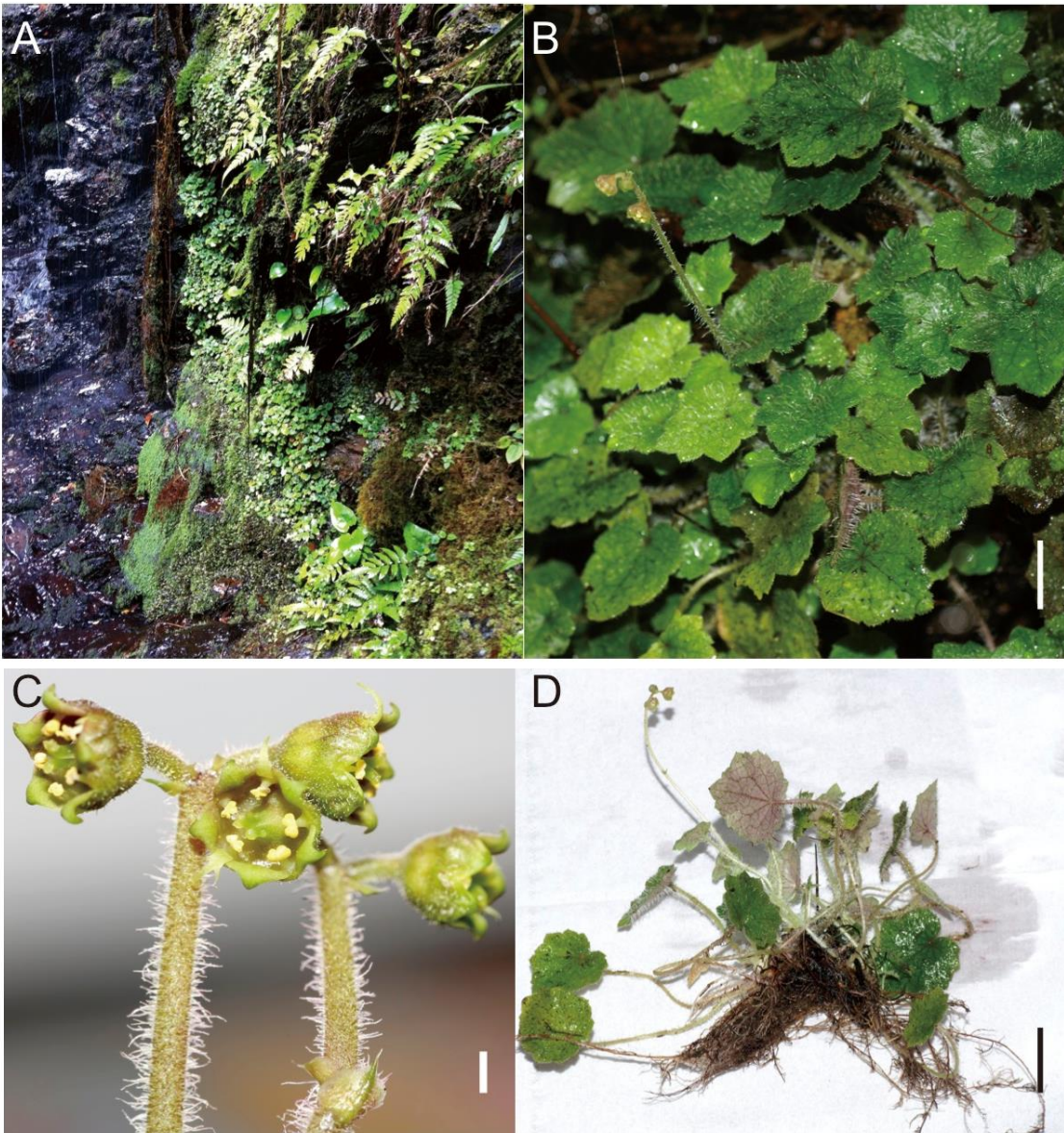
#### 5. 筑波実験植物園での開花株の特別公開

(1) 公開期間（見ごろ 期間）：3月1日（火）～3月21日（月・祝）

(2) 公開場所：国立科学博物館筑波実験植物園絶滅危惧植物温室

（茨城県つくば市天久保 4-1-1 TEL 029-851-5159）

【参考写真】



A : アマミチャルメルソウの自生地での様子。小さい滝の水しぶきがかかるような岩上に群生している。

B : 開花株。縮尺を表す棒線の長さは1cm。

C : 花の拡大写真。花弁は退化傾向。雄しべは5本で、中央に2又に分かれた雌しべがある。縮尺を表す棒線の長さは1mm。

D : 研究用に採取され、国立科学博物館標本庫に収蔵された株。縮尺を表す棒線の長さは1cm。